

市長と語ろう！タウンミーティング 報告書

令和2年2月16日（日）13：00

北秋田市交流センター 1階 講堂

【出席者】

津谷 永光 （北秋田市長）

布田 信哉 氏（H O L T O）

柳原 まどか 氏（コマド意匠設計室）

長谷川 拓郎 氏（阿仁合コミュニケーション）

コーディネーター

武田 昌大 （トラ男プロデューサー）

司会

三沢 聡（北秋田市総合政策課長）

（敬称略）

他、参加者 40 名

1. 開会

三沢課長

それではこれより、「令和元年度 第2回 市長と語ろう！タウンミーティング」を開会いたします。
本日の進行を務めます総合政策課の三沢と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
はじめに、津谷市長から皆さんにあいさつがあります。

2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、また悪天候の中にも拘わりませず、今年度2回目となりますタウンミーティングにご参加いただきましてありがとうございます。

先週はこの会場で、9名の地元出身の高校生の皆さんと北秋田市を語ろうということでタウンミーティングを開催させていただきました。本日は、先週参加してくれた高校生も参加してくれています。心から感謝を申し上げます。また、皆様のご参加も心から感謝を申し上げます。

本日のタウンミーティングは、この北秋田市を拠点として頑張っておいでの方の若手起業家の皆さんと北秋田市について語ろうということで、トークセッションを設けさせていただきました。

鷹巣の駅前に事業所を持っておられるHOLTOの布田信哉さん、同じくコマド意匠設計室の柳原まどかさん、阿仁合駅近くの阿仁合コミュニティで地域おこしを頑張っておられる長谷川拓郎さん、以上3人の方々においでいただき、お話し合いをしようと思っています。

そして、今週もまた、コーディネーター役として、日本全国を頑張っておいでの方、日本を代表する起業家といっても過言ではない、地元出身の起業家である武田昌大さんに務めていただくことになっています。

皆さん方が日頃、仕事や活動を通じて、北秋田市をどう考えているのか、また北秋田市に対してどういう要望やご意見があるのか、様々な意味でのご指摘をいただければと思っています。

本日は北秋田市の未来に続く有意義なトークにしていいただければと思っています。会場の皆様にもぜひご協力をお願いいたしましてご挨拶いたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. コーディネーター紹介

三沢課長

それでは、本日のコーディネーターであるトラ男こと武田昌大さんをご紹介します。

武田さんは、1985年北秋田市生まれ。トラクターに乗る男前農家集団である「トラ男」のプロデューサーとしてお米のネット販売サイトの運営や、五城目町にある築134年の茅葺き古民家を活用した「シェアビレッジ」を立ち上げた他、多数のメディアへの出演や全国で地域活性化に向けた講演活動を行っておられます。

続きまして、本日のパネラーの3名をご紹介します。

まずはHOLTOの布田信哉さんです。

地元北秋田市出身で木工家具職人の布田さんは、オーダー家具や木製雑貨を取り扱い、2017年に奥様と一緒に「HOLTO café & gallery」をオープン、鷹ノ巣駅前に賑わいを作ってくれています。

次にコマド意匠設計室の柳原まどかさんです。

大仙市出身の柳原さんは、2013年にAターンで北秋田市に移住され、2015年に鷹ノ巣駅前にある河哲商店さんの一部を改修して、空間設計やグラフィックデザインなどを行う「コマド意匠設計室」を設立しました。

また、コミュニティスペース「KITAKITA」の運営も行っており、シェアオフィスやオープンスペースでのイベントなど、駅前に賑わいを作ってくれています。

最後に、阿仁合コミュニケーションの長谷川拓郎さんです。

湯沢市生まれの長谷川さんは、仙台で映像製作や写真撮影の仕事をしていましたが、2013年に森吉山の撮影をきっかけに阿仁合に移住しました。2017年に阿仁合駅前に「阿仁合コミュニケーション」を立ち上げ、昨年には「阿仁合の本屋さん」をオープンし、だれもが集まれるニュートラルな場所づくりを目指して阿仁合地区の賑わいを作ってくれています。

以上、簡単な紹介ではありますが、皆様本日はどうぞよろしくお願いいたします。

では、これからの進行は武田さんにお渡ししたいと思います。武田さん、よろしくお願いいたします。

武田さん

武田と申します。今ご紹介をいただきましたが、私は鷹巣生まれの鷹巣育ちです。2010年に地元を何とかしたいと思って、2011年から秋田と東京とを行き来しながら地域に携わる活動をしています。

私はまだ店舗を構えてはいないのですが、お三方は北秋田市に拠点を構えて活動をされていらっしゃる先輩たちですので、今日は詳しいお話を聞いていければと思っています。

それでは、始めに自己紹介と活動紹介、ここで活動をしようと思った理由などをテーマにお話ししてもらえればと思います。では布田さんお願いします。

4. トークディスカッション

布田さん

家具職人をしておりますHOLTOの布田と申します。

家具職人以外には鷹ノ巣駅前でカフェ兼ギャラリーを構えています。

このまちで活動している理由としては、「地元がここだから」というのが一番の理由です。地元がただ単に好きだという理由です。自己紹介といえば、木が好きで木工職人をやっているという自己紹介になります。

地元が好きだという理由の他に、ここで活動しようと思った理由としては、地元の木であったり、地元でお世話になっている製材屋さんなどであったり、そういうのを含めて個人的にはここでやるのが一番良いと思ったからです。

自分は一度、仙台の図面を描くための専門学校に行ったのですが、ほとんど学校に行きませんでした。図面を描くことは学ぶことではない、ということを学んで戻ってきたのですが、小さい頃から木が好きで、本当は宮大工になりたかったのですが、その流れで家具職人になったという感じです。

自分で言うのも恥ずかしいのですが、トヨタの高級ブランドのレクサスが主催する「2018 レクサス匠プロジェクト」という新しいモノづくりの人たちを支援してくれるプロジェクトがありまして、その秋田県代表に選ばれて、そういう活動もしております。

武田さん

ありがとうございました。次に柳原さんお願いします。

柳原さん

よろしくお願いします。

今日は、今までやってきた仕事の事例を見てもらおうとスライドを持ってきました。

主にこのまちで行ってきたものですが、これは、去年合川で建てた住宅のスライドです。このような空間設計もやっています。次のスライドは、森吉で宿泊施設をやっている「ORIYAMAKE」のもので、ここは私が独立して最初に手掛けた仕事で、大きい古民家をリノベーションして、宿と住宅に改築したことになります。(次のスライドを見せて) 夜になるとこうなります。これは長谷川さんに撮っていただきました。

次は秋田市にあるオフィスの内装の改装の写真です。次は展示ブースです。これは、大館市の曲げわっぱの会社から依頼された、短期間のイベントブースをデザインしたことになります。次は先々週ぐらいのもので、北秋田市で食品を製造されている方々の出展ブースです。次は内陸線のお座敷車両の改装した時にデザインしたもので、真ん中のテーブルは布田さんに作っていただき、写真は長谷川さんに撮っていただきました。

空間だけではなくグラフィックもやっていて、内陸線の又鬼(マタギ)列車のロゴマークや、ちょうど本日お披露目となった北秋田のお土産ブランドのパッケージのデザインもさせてもらいました。あとはポスターやパンフレットなどデザインに関する何でも屋さんをやっています。

また、それだけではなく、地元が大仙市ということで、他所からここに来たことから、閉じこもって仕事をしていても、つながりも何も生まれないと感じ、交流できるスペースで仕事をしたいと思い、鷹ノ巣駅前の倉庫を借り、そこをリノベーションして駅を眺めながら仕事しています。ここでは、私だけが仕事をするのではなく、シェアオフィスとして貸し出したり、時間貸しをしたり、カフェみたいな感じで飲み物を提供したりなどしていろんな人と会える環境をあえて作っていて、そこで自分もモノづくりに入っていきたいなと思っています。

この場所を選んだ理由は、実はたまたまです。はじめ東京で働いていて、出張も多かったのですが、その内に田舎で働きたいと思っていた時に、秋田で仕事をしようと思いました。場所にあまりこだわりはなかったのですが、どこか選ぶとなった時に、たまたま伝手があったのが北秋田市だったということになります。

武田さん

ありがとうございました。では最後に長谷川さんお願いします。

長谷川さん

よろしくお願いします。

私は阿仁合というところから来たのですが、2013年に移住してきて、それからいろんな仕事をして2年ぐらい前にコミュニティスペースとして阿仁合コミューンを作りました。

仕事は映像製作と写真撮影をしてまして、そのきっかけで阿仁合を訪れた時に、こんな素晴らしいまち

が未だに残っているんだとものすごく感動しまして、割と早めに決断をして移住してきました。

元々母親が湯沢市出身で、そこで生まれたのですが、父親が転勤族で、青森県八戸市に住んで、マレーシアに5年ぐらい住んで、帰って来てからは新潟県新発田市で高校3年間過ごして、大学は山形に行きました。その後は、実家が東京にあったので東京で社会人を3年ぐらいして、その後に山形に戻って母校の大学の助手を勤めてから仙台に行きました。いろいろな所に行っているのですが説明がしにくいのですが、いろんな地域を見させられてきました。その場所が割と都市ばかりだったのですが、阿仁合に来た時は、こんな都市ではないところに鉄道が走っていて、駅があって、駅を中心に商店街が頑張っているなんて、こんな山奥なのにこんなところがあったんだ、と本当に感動的で、すぐにでも来てこの地域の映像を撮りたいという風に思ったのがきっかけで、映像製作を仕事にしつつ、写真撮影も仕事にしております。

今日のテーマは若手起業者とのことですが、私自身は起業者だという認識を持っていなくて、起業というレベルには全然達していないと感じています。阿仁合コミューンを始めたのは、家賃が安いからで、スペースが都市に比べるととても安く借りられるからです。こんなメリットは他に無くて、都市では絶対できないです。阿仁合の駅から徒歩30秒ぐらいのところで行っているのですが、とにかく安く貸していただいているのが一番大きく、自分の居場所を安く作らせてもらっているのは、これは大家さんに感謝しかないのですが、せっかくそういう居場所があるのであれば、使わない手はないと思いました。

まだコミュニティスペースといいながらも、ビジネスらしいことは全然できてはいなくて、主な仕事は個人事業主・フリーランスの写真撮影と映像製作でほとんどの収入を得ているところです。コミュニティスペースとしては全く起業といえる段階ではないので、今後の課題でもあるし、うまくビジネスにつなげていければ良いと思っています

武田さん

ありがとうございます。

もっと深掘りしていきたいと思います。

皆さんは、実際に活動していて、場所を立ち上げたりして、数年経つと思うのですが、北秋田市で活動してみてもの感想などをお願いします。

布田さん

駅前にカフェ兼ギャラリーをオープンした理由は、とにかく人がいなかったこと、人が歩く循環の中で気軽に立ち寄れる場所を作りたい、というごく単純な理由です。あと自分が作ったものを少しでも近いものにしたいという思いがありました。木工を身近にしたいという思いと人がいられる場所を作りたいということからオープンしました。自分では、宣伝を基本的にはしていないので、未だに新規のお客さんには「ここにこんな場所があったんだ」と言われます。現在の感想としては、駅前にいて思う感想はとりあえず人がいないということです。普段駅前まで足を運ぶ循環が無い気がします。

武田さん

柳原さんは、つながりあえる場所ということで開かれた場所になっていると思いますが、駅前に拠点を構えてみてどう思いますか？

柳原さん

はじめ鷹巣でやりたいと思った時に、二つの空き家の候補地がありました。もう一つ良いと思った場所は街中で、もしそっちを使っていたらまちの人の目に触れる場所だったのかなと思います。今、駅前は人がいなくて静かですが、もう一つの場所には車を置くところがなかったのでその選択でした。駅前にオー

ブンして5年ぐらい経つのですが、オフィスとしての使い方がメインなので、静かで結構好立地で仕事はかどります。また、イベントなどをやりたいという時は、分かりやすい場所にあるので人を集めやすいです。あとは観光客の人が休んだりコミュニケーションをとったりとか、比較してみると今の場所が良かったと思っています。

武田さん

移住してみて、暮らしの面ではどんな感想ですか？

柳原さん

すごい便利だと思います。私は大仙市の協和出身で、協和は全然田舎なので、鷹巣は大都会で便利だし、東京から帰ってきた身としては田舎が近いというか、田舎とバトンタッチする場所だと思います。阿仁とか森吉にも気軽に行けるし、山にも東京にも行けるし、買い物にも不便しないとっても住みやすいところだと思います。

武田さん

ありがとうございます。では阿仁合の駅前はどうですか？

長谷川さん

阿仁合の駅前は、「意外と」と言ったらあれですが、観光客が増えていまして、私が移住していた2013年に比べますと断然観光バスが増えていて、毎日のように入って行きます。多分、内陸線や北秋田市の努力が実を結んできたと思うので、外国からの観光客が結構歩くようになってきています。とはいえ、まだ阿仁合に滞在する時間は10分や20分です。駅前にスーパーマーケットがあるのですが、観光客は、みんなバスで出発する前に立ち寄って、パンやプリンとかを買ってバスに乗り込んでいきますが、それぐらいです。1時間や2時間の滞在が無いのは課題だとは思いますが、徐々に観光客が増えてきていると思います。

観光客は台湾などから来て、異人館や街中をぐるぐるまわっています。向こうの人にとってはものすごい魅力があるわけではないのですが、古い民家やお店などがとても珍しいみたいで、写真を撮ったりして、日本人が見向きもしないような場所にいたりしているので、それはそれで一つの魅力だと思います。

ただし、シャッターの前では写真を撮らなくて、きちんとお店としてちゃんと開けていてやっているところだからこそ人が立ち止まっているのかなという気がします。

武田さん

今、本屋さんとコミュニオンと、拠点を二つやっていると思いますが、阿仁合の商店街ってちょこちょことお店が開いていますが、例えば、食べ歩きができるスポットが増えたり、もっと街中を回遊できたりするような場所が増えれば滞在時間が増えるようになると思うのですが、今後店舗を増やす予定はありますか？

長谷川さん

空き家はいっぱいあるので、工夫をすれば、人がいなくてもできるようなやり方で、人がいる時にも対応できるような仕組みを考えれば、絶対うまくいくという気持ちはあります。あとは空き家をどうやってうまく活用できるかにかかっていると思います。

武田さん

鷹巣の駅前には人がいない、でも阿仁合の駅前には観光客が来てはいるけど滞在時間が短い、ということでやり方が違うと思うのですが、本屋さんは無人で運営しているのですよね。

長谷川さん

本屋さんは何でやったかといえば無人でもできるからです。元々ガソリンスタンドがあった場所で、30年間ぐらい空き家になっていたものでした。阿仁合の駅前にあるのに廃墟みたいになっていて、ガラスが割れて荒んでいる場所だったのでとてももったいないと思っていて、せっかく観光客が阿仁合の駅前を歩くのに、いきなり廃墟があれば「ここは廃れている」というイメージがついてしまうのがもったいないと思いました。だったらがらりと変えて、きれいな場所にするだけで、廃れているというイメージは持たれないだろうというのが少なくともあったので、そういう場所にすることによって、なんかかわいい場所があると思ってもらえれば、それだけでイメージが変わると思いました。

しかも、飲食店は初期投資がかかるし、人がいないといけないというのがあったので、たぶん阿仁合駅前で飲食店は相当なギャンブルだと思い、だとすれば人がいなくても成立する手法は何かと思ったら本屋だと思いました。たまたま東京で24時間の古本屋さんを無人でやっている人がいたので、それがヒントになって、東京でもできるのであれば阿仁合でもできると思い、場所もちょうどいい場所であったのが始めたきっかけでした。

また、「本がある場所」というのを見せられるというのがメリットで、人は本を見るだけで文化的な認識を持つみたいです。本があるだけで認識が変わるようですし、本はとても力を持っていると思っています。また、新刊だと少し大変なので古本屋さんという形でやっています。

武田さん

まちづくりの話になるのですが、地域に賑わいをどう出していくかを若手起業家目線で聞けたらいいなと思います。布田さんからお願いします。

布田さん

個人的な意見ですが、そもそもこのまちに店を出した理由は、賑わいを創出するための目的があったのですが、昔と少し考え方が変わってきていて、簡単そうで一番難しいと思うのですが、例えばまちに住んでいる人たちが一日数秒でもいいので「このまちを良くするにはどうすればいいか」という考えをもってもらう、一人ひとりが「このまちどうなったら活気づくのだろうか」ということを思えば、そちらの方が良いのではないかと考えていて、集まって話をする仲間がいて、とにかく楽しいことをやっていけば、少しでも思ってくれている人が付随してついて来てくれるのではないかと考えに代わってきています。

私は木を取ったら何もない人間なので、木を生かしつつ、まちのために何か木を生かしたまちづくり、活性化の仕組みを考えつつ、笑いながら仕事をしていけば、周りが寄ってくるのではないかと考えています。

武田さん

まちにいる人たちはどうですか。笑いながら仕事をしているようですか？

布田さん

自分の周りのメンバーは楽しそうに仕事をしていますね。その人たちといるとそういう考えになったという感じです。

武田さん

まちにいる人が一日ちょっとでもまちのことを考えることって、みんなで一緒に話し合う場があったら良いと思いますか、それとも一人ひとり個人個人で考える方が良いと思いますか？

布田さん

個人個人が考えるために、今日のような場所があれば良いと思います。こういう場があるからこそ、家に帰ってからご飯を食べる前などにも考えられると思います。こういう場所をもっと増やしたいと思います。

武田さん

こういう意見が出ていますが市長どうですか

市長

布田さんは前から知っていますし、木に対する愛着がすごい方で、市のふるさと納税の返礼品にも出品していただいています。以前、秋田県の企業誘致で来られた企業さんへの表彰で、記念品の製作をお願いしたところ、その企業さんがすごく喜んでおられて、これはすごいということで出来れば結婚式の引き出物のようなものに使いたいと量産の相談がありました。しかし、一人でやっているのも難しいということであったので、商売としてはとてももったいないなと思うことがありました。

自分で楽しんでやっていて、駅前でお店をやっていると思いますが、一つ不満があります。それは、いつやっているのかが分からないことです。駅前の賑わいを作ってくれてはいるのですが、やっていることを我々にも分かるように発信してもらえればと思います。

それから、私も駅前の人間なので、こういう機会を通じてもっと駅前に人を来やすくして欲しいと思います。さっき話がありましたが、一秒でも良いので市民の方々がどうしたらここに賑わいができるのかというのを考えていけるような場が欲しいのかなという話もありましたので、場所の提供でもいいですし、我々もPRしていくのでよろしくお願いします。

武田さん

今回のようなイベントの参加者をもっと増やしてほしい、住民の方がもっと参加欲しいなと思うところがありますね。ところで、市として職人さんを増やす方向ってあるのですか？

市長

「地元の木を使ってネットワークをしながら」という動きがいろいろ出てきています。ですから、そのためには職人さんも必要ですし、自分が携わっていくための努力も必要だと思います。自分がどちらの方向に向かっていくかは別として、地元にも企業や製材工場もありますので、そういうのを経験してスキルアップしていくのが必要だと思います。

武田さん

「木を生かしたまちづくりをしていこう！」という風に振り切っていけば、職人を増やしたりいろんなやり方ができると思ったりしていて、賑わいを作るためには何かテーマを絞っていくというのも有りなのかなと思っています。それだけに全てお金を使っていくということではないのですが、未来につながる・育てていくというのが広まってくれば、布田さんの仲間がどんどん増えていって、まちに賑わいが出てくるのではないかと思います。

飲食店が開いているか開いていないかについては、自分が鷹巣にお客さんを連れてきた時も、今日は開

いていないということがあったので、そういった情報を誰かしらがまとめて発信してもらいたいとずっと思っていて、そういうのがあると良いなと思います。

柳原さん

先ほど布田さんが言っていたように、楽しく暮らすということでは、私は満足していて、とても楽しくしています。でも、「なんでここに来たの？大丈夫なの？」と地元の人に言われると少し萎えてしまいます。ポジティブな人と話す方が楽しいし、そういう人たちと仲間になって集まって話をするといろんな発想が出てくるし楽しいと思います。

実は、今日の午前中に、五城目の空き家ツアーのゲストに呼ばれて行ってきましたが、結構人が集まっています。いつも移住ツアーを主催する家主さんがやっているみたいで、それだと2、3人ぐらいしか集まらないということだったのが、今回初めて空き家ツアーをやったら20人ぐらい集まって、結構空き家に興味がある人がいるようでした。

個人的には仕事もそうだし、空き家を見てここをどんな風にしたら良いか、どんな使い方をしたら良い空間になるかなどを考えるのが好きなので、鷹巣でもそういうのをやりたいと思います。

武田さん

ぜひやりましょう。リノベーションした建物を見るのではなくて、まずここ（空き家など）をみんなでどう改造したら良いかというのをツアーにしていくなども良いですね。

柳原さん

それを五城目では定期的にやっていければと言っていたので、街を歩いているだけで「今日何があったの？」という風に声を掛けられるし、人がいない状況が日常なので、まちに人がいることがとてもびっくりされます。ツアーをやっているだけでも賑わいになって、まちの人も普段何でもないと思っていたものが、外から見ると「そういう風な見方があるんだ」という興味を持ってくれる人がいっぱいいるのを実感できれば、それがまた良いのではないかと思います。

武田さん

私の知り合いも空き家ツアーに東京から来てたりしますが、結構魅力があるみたいです。人がいないから空き家ができているのですが、それを逆手にとってツアーにして人が集まってくる、という良い循環かなと思っています。市長、このようなツアーは実現が可能でしょうか？

市長

移住定住ツアーだけだと、なかなか人が来づらいと思いますが、例えば空き家バンクというのがあるのですが、それはそれとして、実際にこういう空き家があって「どういう使い方をしようか」というのを見ながらアドバイスをしていただくようなツアーだと関心を持って来てくれると思います。

五城目では、朝市の開催の日には、おのずと人が集まるのですが、さらにプラスアルファとして、人が来てくれてまちを巡ってくれることによって、お店というのは開けていないと人が覗いてもくれないし、開けていても中が良く分からなかったり、何を売っているのか分からなかったり、地元にいっても足を踏み入れたことがない商店も結構あると思うので、ツアーの人たちが街中を動くことによって、結構賑わいが増えてくれるのかなと。なるほどと思いました。

武田さん

今、北秋田市の空き家バンクに 8 件の登録しかないようですが、五城目も空き家バンクがあるのですか？

柳原さん

空き家バンクがあるかは分からないんですが、直接交渉してすぐにでも貸してくれそうなところをピックアップした 3 件を見て回っていました。

武田さん

五城目では、地域おこし協力隊が空き家の政策をやっていて、自分たちでネットワークを組んでいるところがあるので、そういう活動も必要かと思います。

市長

商工会で空き店舗などの貸してくれそうなところを調べたことがあったのですが、家賃が高かったりしてマッチングできなかったことがありました。本当は、固定資産税プラスアルファぐらいで貸していただければ、もっとシャッターが開くのではないかという気持ちはあります。

また、長く続けていた飲食店が辞められたり、継いでくれる人がいなかったり、すぐくもったいないことが結構増えてきているので、そういう意味では、何とかそういうところを続けてもらいたいと思います。

武田さん

全国的にも継業が注目されていて、移住定住の次は仕事も継いでくれみたいなことで、移住者を呼び込む県も増えてきているので、せっかく仕事があるのに無くなっていくというのは本当に地方にとっては痛手になるところがあると思います。

そこをいかに移住者とつなげていくかというのが大事だと思いますし、仕事はあるんだよということ、仕事を継いでいくこと、というのがとても大事だと思いました。

ここで聴衆の方からご意見をお願いします。今の意見を聞いてどう思いましたか？

聴衆 1

自分は鷹巣の坊沢というところでお店をやっていますが、本当に歩く人もいなくて、この後どうしようかなという悩みはあるのですが、駅前も人がいないということで、どうやってカフェとかをやっているのかどうやって生計を立てているのかを思いながらお話を聞いていました。

自分も街中にお店を出したいと思った時期はあるのですが、やはり地元が大事で、意地でも地元にいなければならないという気持ちで、地域に店が無くても人がいなくてもそこで商売をやっているのですが、やはり若い人たちが若い人向けのお店を出していける世の中になれば良いと思いました。

武田さん

秋田県や北秋田市はチャレンジしやすいまちだと思っています。もっと若者が増えてくる環境があるのではと思っていますので、その辺の仕組みが整ってくると普通に人が増えてシャッターも開いてくるのではないかと考えています。

柳原さん

市から家賃補助を 2 年間頂いてとても助かったのですが、条件がいろいろあって、例えば 1 階でなければいけないとか、人が必ず入れるスペースでなければいけないというのもあって、事務所としてだけだと

補助を使えなくて、お店だったりギャラリーだったりでなければ補助を使えないものであったので、もう少しゆるい感じにすれば空き店舗を使って起業したいという人もいるのではないかと思います。

市長

使っていただけるような仕組みに、一生懸命まじめに頑張っている人の努力が報われるような、補助事業を生かしきれるような事も必要と思いました。

武田さん

補助事業の仕組みを作っていくにあたってのアンケートなどがありますか？

市長

隣近所のお店がどういう商売をやっているのか地元の人も良く分からない状況です。地域以外の方々と、あの店はどのようなことをしているのかということに関心・興味をもってくれますが、昔からいる地元の人は意外と臆病であります。ですから、若い方が自分たちから足を運ぶ勇氣が必要で、そのためにもチラシを作って配布すれば良いと思います。

地元にいる人間と起業される方々とがお互いに歩み寄り、理解しあえるようなことができれば良いと思います。

長谷川さん

阿仁合駅前もお店を作った当時は、地元の人はほとんど誰も来ませんでした。何をやっているか分からないという感じでした。例えばそれがカフェだったらみんなが来やすいと思います。昨年作った本屋さんは、何をやっているのか分かりやすいので皆さん来てくれます。割と地元の人も来てくれます。しかし、最初に始めた阿仁合コミュニケーションというコミュニティスペースだとほとんど来なかったです。若い人で、元々面識がある人は顔を出してくれましたが、面識のない地元の人は何をやっているかよく分からないのでほとんど来ませんでした。

私は逆に何をやっているか分からない場所を作りたくて、現在は、分かりやすいと安心することから分かりやすさばかりを求めてしまいますが、あえてこの地域に分かりにくさを作りたい、混乱させたかったというのがありました。「外から来た人が訳の分からないことを始めたぞ」みたいな感じで、ちょっと不安にさせたかったです。分かりにくさも重要で、分かりにくいところから分かりやすさが初めて生まれるということで、あえて阿仁合コミュニケーションという場所を作りました。人が来なくても、そのうち来てくれればいいし、何かのきっかけで来てくれた時がスタートだと思っていて、その時にどんな話ができるかが重要だと思っています。

私はこの地域には、賑わいが無いとは全然思っていないくて、賑わいはあると思っています。鷹巣も阿仁合もそうですが、そこに人がいる限り、賑わいはちゃんとあると思っています。昨日、阿仁合のスノーキャンドルストリートがあったのですが、ちゃんと皆さんが高齢の方も含めてスノーキャンドルづくりをしていますし、全然手を貸さないというわけではないし、このイベントをやろうという意識もあるので、賑わいが無いかといわれるとそれはちょっと違うという気がします。賑わいはあるのだけれど、東京ほど見えない、人数が少ないからそう見えてしまいますが、少ないながらも賑わいがあると思っています。

つまり、大きさの問題だと思います。小さいけど賑わいがあるし、賑わいがあるからこそ自分たちも外から入って来れているし、活動ができる場所があるというのは、そこに住んでいた人が賑わいをずっと維持してくれていたからだと思います。

武田さん

阿仁合は阿仁地区の都市部だと思いますが、阿仁合ではない他の阿仁地区の賑わいはどうですか？

長谷川さん

比立内などの奥阿仁地域では、地域のつながりがもっとあります。奥に行くほど地域の横のつながりがもっともっと強くあります。都市部に行けば行くほど横のつながりは薄くなってくると思います。鷹巣や大館だとつながりは分散しがちですが、奥阿仁まで行くと中の人がしっかり手をつないで、一つのことにものすごく必死になってできるというのは地域のすごい力だと思います。

武田さん

ここからは、このまちで事業を進めていくにあたって、市などに改善・検討して欲しいことをテーマにしたいと思います。

布田さん

ここをこうして欲しいというのはあまり無いのですが、さっき言ったとおり、なんか楽しいことをしたらそれについてきて来れたら良いかなという軽い考えを持っています。

補助金などは、起業する人や新しく何かを始める人の一つの入り口になると思うので、そこは少しゆるくしてもらえれば良いと思います。書類を書いたりするのが、とても面倒くさいので、枚数を減らしてもらなど、そういうゆるさがあれば良いと思います。

武田さん

私はよく空港を使って東京に行くのですが、動き方についてはどうですか？

布田さん

飛行機はやっぱり早いです。空港がすぐそこにあるのはとても良いと思います。飛行機代をもう少し安くして欲しいです。補助はとてもありがたいです。飛行機代が安くなって補助がもっとつけばいいですね。

武田さん

ここに何か革命を起こせばいいですね。いろんなことを駆使して、飛行機に無料で乗れる何かをつくれれば、もっと人が来ると思いますね。そこにアイデアが必要だと思います。

空港の活用について何か感じたりしますか？

柳原さん

大館や能代には飛行機の補助金が通年であるのですが、北秋田市は冬しか補助が無いです。例えば、飛行機の補助金が通年になるとか、事業をやっている人は毎回補助を使えるとか、武田さんたちのようにしょっちゅう東京にいる有名な人がもっと外から来てくれるようになれば良いですし、もっと外にも出やすい仕組みがあれば良いです。

逆に未開の地というのも面白いかもしれません。一切何もPRせずに、すごい行きづらい場所というのだけで、何があるのだろうという秘境のような感じで。

武田さん

秘境感といえば阿仁の感じがしますが、鷹巣をこれから秘境にするのは結構大変な気がしますね。長谷川さんは空港を使ったりしますか？

長谷川さん

普段は内陸線に乗って新幹線を使います。内陸線があるので東京からのアクセスがすごい良いです。

武田さん

例えば、北秋田市に事業所を置くことにメリットがあるとすれば、東京にオフィスを構えるのではなくて、北秋田市にオフィスを構えて逆に東京に通うというスタイルの可能性があると思っていて、そうすると面白いまちになってくるのではないかと思います。

長谷川さん

せっかく市長が来ているのでお話ししますが、考え方として、阿仁合コミュニンを作ったきっかけは、地域の交流もそうですが、行政と民間の相対になることがもっと必要だと思っています。行政ができなくて、民間でも売り上げにならないけど、まち単位でやらなければいけないことは確実にあります。空き家なんかもそうですが、行政が取り組む空き家は、いわゆる空き家バンクみたいなもので、それはどうしてもそれなりに住める空き家でなければいけないし、設備も整っていなければいけないし、すぐに買い手がつくようなものが空き家となっています。しかし、ドアが壊れていたり水道がきていなかったり、トイレがついていなかったりとかそういう空き家の方が多いのですが、そういうのを掘り出せる人がいません。民間の不動産会社もビジネスが成り立たないからやりませんし、行政もそこまで介入できません。「では誰がやるのか」となった時に私がやりたいと思っています。町内会単位でやっているところや元気がある町内会長さんがやっているところもあるのですが、だんだん高齢化になってできなくなっています。

もう少し、民間と行政ができない中間のことを、何とかうまく我々のような人と一緒に何かやっていく組織、横のつながりの組織みたいなものをフラットな感じで、自分はゆるいということが好きなのでその辺のゆるさを出していければ、もう少しいろんな仕事で自分たちの力を発揮できるし、もっと良いまちになっていけると思います。

行政と民間の中間のことこそやるべきことがすごく多いです。東京では人が多くて、やるべき人やシステムもすでにあるのであまりやることがないです。例えば、阿仁や鷹巣などの方がやるべきことがいっぱいあって、デザインの仕事や映像の仕事もいっぱいあるし、ものすごくこっちの方がクリエイティブな仕事が圧倒的に多いです。ただ、これがお金にならないというだけでみんな東京に集まっているだけの話で、こっちのほうがクリエイティブなことやシステムの仕事が圧倒的に必要で、そこにどうやってお金を結び付けていくのかという課題はありますが、そこらへんを行政とうまくコンビを組んで協力し合いたいと思っています。

市に対して文句をいうのではなく、協力体制を築いて、より良い北秋田市にするために、お互いがハッピーになるような仕組みを作ってもらいたいと本当に強く感じます。

武田さん

なぜ、東京にいて社会起業家が増えるかといえば、行政が取りこぼすぐらいの課題がいっぱい出てきて、企業としてはできないけれども解決していかないといけないということから、この5~6年で社会起業家が増えてきています。行政ではやりきれない部分とか、企業が手を出せないような課題が地域にはいっぱいあるので、そこを我々の若手のゆるいネットワークで解決していく団体ができれば面白いと思います。

市長

自分でも行政に携わって長いのですが、行政でやるべきことがきちんとしていないといけないのですが、それを考える職員たちに、さっき「ゆるい」という話がありましたが、ある程度「あそび」の部分があっても良いと思います。「あそび」ばかりだと行政が何をやっているんだと言われてしまいますが…。

よく言われるのが、この地域は、行政が全部ドアツードアでやってしまうので、行政がなんでもやってくれるんだと思っている人がいます。行政は、必ず住民のニーズに応じてしっかりやらなければいけないわけですが、では民間の方々は何をやるんだということ、商売で儲けられればいいのだけれど、今話した中間という気持ちを持ってくれる人がいるとすれば、行政との話し合いの中でどういうことをやっていただけるものか、お手伝いができるものかということが、益々必要になってくると思います。

阿仁を例にとってお話をしますが、今は、マタギの文化や阿仁鉱山、根子番楽や内陸線も頑張っているということもあり、地域の人たちが外から来た人たちに対して、誇りをもって地元の神社などを案内してくれています。そういう方々の頑張りに対する協力金のようなものを出せるような仕組みができないかと感じています。

今後、北秋田市は高齢化による人口減少が進んでいく中で、昔は子どもが生まれれば祖父母が面倒を見てくれていましたが、今はそういう時代ではなくなっていました。例えば、そういう時に地域の人たちが面倒をみるとしても、なんか事故があれば困るということで遠慮をしているところがありますので、そういうところを少しゆるく考えながら「地域で子育てをしましょう」ということができるのかなと。

そういう時に、民間と行政の間に立って考えてくださる方の仕組みができてくるのではないかと考えています。そういう意味ではキャッチボールをしていかなければいけないと思います。

武田さん

キャッチボールなんですけど、私たちは日々まちのことを考えてたりする中で、こうなればいいなあと思っても、市長や市役所までの距離が遠くて中々キャッチボールができない。どうキャッチボールをすればいいのか、みんなが普段思っていることをどのようにアクションにつなげていけばいいのか、このイベントは年に1回しかないけど、もっと頻繁にやりたいと思った時にどうやっていけば一番いいでしょうか？

市長

当事者の方々にすれば、敷居が高くて話しにくいと思われると思いますが、私から言えば、決してハードルを高くしてはおりません。「中々市長と会えない、市長と話をしたいんだけど」ということをよく言われますが…。

武田さん

市長だけではなく、「話せる人はこの人です」ということを言ってもらえてもいいのですが？

市長

そう意味では、今司会をしている方（総合政策課長）ですね。決して市役所は門戸を狭めているわけではないです。市では SNS（Twitter や Facebook）をやっていますので、もしそこに意見を出していただけると拾うことができるのかなと。もちろん、市役所にも持ち込んでいただきたいです。

武田さん

課題はまだまだたくさん出てくると思っていて、行政側で見えていて我々がキャッチできていないこともあると思いますし、それらも共有してもらおうと、「これだったらこういうことができる」みたいなことが話せるテーマになると思います。

市長

さっき話題になった航空運賃が高いということですが、日程が先に決まっていれば、超特割のように安く行けますが、例えばご不幸ごとがあったりして、急に東京に行かなければならない場合の航空チケットはとても高いものになってしまうので、その辺をどうしていくのが課題になると思います。今後便数を増やすという動きもあれば、益々使いやすくなってくると思いますし、私も内陸線と新幹線はどんどん使っていただきたいですし、いろいろ交通手段があり競争原理が働くので、航空会社の方にも安くできるように市としても要望はしています。

先ほど冬場だけの補助という話がありましたが、どうしても冬場の搭乗率が低かったなので、それを上げていきたいと思いますということで始めたのですが、最近は夏冬関係なく搭乗率が増えてきているので航空会社も考えてくれるのではないかと思います。

武田さん

今は我々から検討して欲しいことなどを言ってきましたが、市長側から我々にこうして欲しいという意見はありますか？

市長

もっと「北秋田市は住みにくい」などという話が出てくると思っていたのですが、逆にすごく北秋田市が便利だという話がありました。私の知人で阿仁に移住されている方がいますが、店も少ないし不便だと思ったので、「鷹巣に居を構えたらいいのでは」と言ったのですが、逆に「ゆったりとした時間が流れているし、隣近所の人から野菜をもらったりお裾分けをしてくれる。はじめは声をかけにくかったが向こうから声をかけて頂いて、すごく気持ちが優しい。何かあれば内陸線で鷹巣まで行けばいいし、スーパーもあるしということで不便はありません。」ということでした。

ここは大きな災害もないし、空気もおいしいし、時間もゆったり流れているし、ゆとりをもって過ごせる良いところだということでした。

それが評価されて、住みよさランキングで北秋田市が上位に入っていますし、そういったことをもう一回我々は見つめ直して自覚していけば、たくさんの方々に市民一人ひとりが市外の方に「北秋田市はいいところだよ」って声掛けをしてもらえれば、もっと人が来やすくなるのかなと思います。

武田さん

我々が北秋田市のことをもっと発信して伝えて欲しいということですね。

では次に、今後この北秋田市でどんなことをやっていきたいのかを聞いていきたいと思います。

布田さん

私の工房がここから車で10から15分ぐらいの七日市地区にあるのですが、近い内に街中に工房を構えようと思っています。もっと木と触れ合える、木工・木材自体をもっと身近なものにしたいので、常に作業を見ることができる環境にして、いつでも工房に来てもらって、例えばコースターを自分で作ったりなんでも勝手にやったりしてもらえそうな場所を作ろうとしています。

理想の展開としては、大工さんや電器屋さん、内装屋さんや左官屋さんなどの他業種の人たちが、街中

の空き店舗に工房や事務所を構えて、銀座通りを「職人の通り」として、道行く人が勝手にそれぞれの場所に入って何かを学んでいく、毎日違う業種の仕事を目にする事で、すごい子どもたちがこのまちから出て欲しいというのが理想です。そうなれば楽しいだろうなと思います。

柳原さん

人の家ばかり作っているので、自分の家を建てたいと思っています。東京から秋田に来た時は、自分の拠点を作りたいなと思っていたのが何となく形にできてきたので、今度は住むところもできたらいいなと思っています。

暮らしを作る仕事をしているので、自分の暮らしも地域に沿った、それも外に向けて発信できるようにしてもいいと思っています。今の暮らしでも十分満足していますが、もう一つのステップとして自分の住むところを作りたいなと思います。

長谷川さん

自分自身の仕事を良くしていくこともそうですが、あえていうなら、極端ですが、阿仁合をもっと世界・秋田県の中心にしたいと思っています。阿仁合という場所を中心にして、もっともっといろんなことをやっていきたいと思いますし、願望でしかないのですが、阿仁合のことを全てやりますよという「北秋田市阿仁合コミュニティ課」というのを市役所の中に作りたいです。これからの時代は、行政の組織も変化していくと思いますが、そういう中で阿仁合コミュニティ課ができるとこれはいいなあとと思います。冗談ですが、そういう気持ちで阿仁合コミュニティをやっています。

元々コミュニティとは、コミュニティという意味ではなくて、「行政単位が一番小さいもの」という意味もあります。例えばパリコミュニティが有名ですが、ここは市町村合併で北秋田市になっていますが、元々は旧4町があって、その中にさらにその前の合併前の阿仁合村や荒瀬村などのもっと小さい行政単位があったわけですが、今は合併して北秋田市という一つの括りとなっています。

これまで話してきたように、鷹巣と阿仁合では全然違うので、鷹巣にはシャッター街という問題があるように、阿仁合は阿仁合でまた全く別の問題があります。このように、一つの市とはいえ、合併して大きな単位になっていますので、やっぱりもっと小さい視点でやっていかないとどうしようもなくなってしまおうと思います。北秋田市の一部ということで、名前自体も無くなってしまいますので、外から来た人は北秋田市というのがどこだか分からない、どこが北秋田市なのか、行政単位としての北秋田市はもちろん必要ですが、もっと小さい単位での行政単位、つまり阿仁合であったり大阿仁であったり荒瀬であったり萱草であったり、もちろん鷹巣は鷹巣で必要ですし、もっともっと小さい単位に戻らないと、どんどん廃れていくし、無くなってしまおうし、合理性に飲み込まれて特色が無くなってしまおうので、そういう意味では昔に戻らなければいけないと思います。

国や行政は、先に先に進もうとして合併していくので、市民はそこを戦っていかないといけないと思います。行政の流れに飲み込まれずに、市民はその地域に立ち戻らないとどんどん流れていってしまうので、もっともっと阿仁合にしてもそうだし、阿仁だけが良くなれば良いとは思っていませんので、他の地域も全て含めて阿仁合と同じやり方でいければ、絶対その地域は維持していけるし、もっと良くなるはずなのでそこをもっと実践していきたいと思っています。

武田さん

私は、自分の住んでいるところから半径1キロをまちだと思っているので、そういう人がもっと増えていかなければならない、広い目線で見すぎていて全然目の前のことが見えていないのでまちづくりが

進まないと思っているので、もっと身の回りのことをちゃんと見て、環境を良くしていけば良いのではないかと考えています。3人の意見を聞いて市長のコメントをお願いします。

市長

今、例えば大工さんや左官屋さんや板金屋さん成り手がどんどんいなくなっています。人口減少で家を建てる人が少なくなっていることもあるかもしれませんが、職人さんがいないと、先般の災害などの時に家を直してくれる人がいなくなってしまう。職人のまちはとても夢があって良いと思います。

昔は、馬の蹄鉄の鍛冶屋やのこぎりや刃物を扱う店など、手作りの店が結構あって、店の前を開けていたので子供たちはその前を通って見ることで、いつかその技術を身につけたいと思ったものでした。

今、それをやるのは中々難しいかもしれませんが、お話があったように、そういうものを見せる、参加するという体験は大切なのかと思います。長谷川さんがやっている「和 ROCK」にしても、子どもたちが自分たちで体験していくことは大人になっても忘れることはないし、その中から地域に対する心が生まれてくれば面白いと思います。

コミュニケーションの話については、市長という立場で行けば、この大きい市をどうやって運営していくのか、人も少なくなっているし税収も上がってきていないし、この北秋田市を未来につなげていかなければならないという役割を我々は持っています。市民ニーズも安全安心や防災などすごく大きいのですが、それを構成している各集落の人たちが、その地域に対して誇りを持っているのか、こういう風に自分たちで作っていきましようとか、ここから積み重ねていけば北秋田市も未来に向かってつなげていけるのではないかと考えています。

そういう意味では、今日のお三方の話を聞いて、何とか自分の楽しいこと、やれること、将来の北秋田市のためにつなげていけることを一緒になって頑張っていただければと有難いと思います。

武田さん

富山県南砺市では、宿泊しながら職人に弟子入りができる「ベッドアンドクラフト」という宿があって、職人の下で木彫りを体験しながら泊まることのできるまちづくりをしています。単に見に来て買って終わりではなくて、関われる場所・学びを得る場所というのがすごく良いと思うので、そういうポイントが北秋田市でも拠点として増やしていければ良いと思います。商店街だけではなく、そんな場所が増えれば、より観光で来てくれる人の滞在だったり、賑わいだったり、学びだったりという形で人が増えてくれるのではないかと考えています。

ぜひ柳原さんの家を、「北秋田市住居」として一つの木材を使ったなど、北秋田市らしい家づくりをテーマに発信してもらえれば個人的には良いなと思いました。

それではこれまでの話を聞いて会場からご意見ををお願いします。

聴衆 1

職人のまちとして、子どもがいろんなキャリアに触れる環境は、別ジャンルですが私もやりたいと考えていて、創業者や若手の育成などを昨年やり始めていたところでした。もっと広い視点で子どもたちが仕事に触れる機会が、これからのこのまちの働き手や働きやすい環境を作るという意味でも重要だし、面白そうだと考えています。

聴衆 2

私自身も北秋田市に住んでいて、地元のお店が何をやっているのかあまり分からなかったもので、そういうのがもっと分かるようなものがあればいいと思いました。

聴衆 3

今日は学校の生徒を連れてきたのですが、大学で地域の課題や経済を学びたいという希望を持つ生徒を連れてきました。コーディネーターへの質問ですが、全国を見てきて、まちづくり・まちおこしの上手くいっているところの共通点をご紹介して欲しいのと、その点について北秋田市はどうかをお聞きしたいです。

武田さん

私は年間 50 地域に行っていますが、ほとんどが田舎です。都会だから成功しているというわけではなく、成功というか元気なまちだと感じるポイントは二つあって、一つ目は行政マンにいわゆる変人、活力ある打たれ強い若い行政マンがいることと、二つ目はまちに住んでいる一人ひとりが元気であることで、歩いている人やお店に入ると元気があるかどうかはすぐ分かります。やはり有名で地域活性が元気なまちでは、一人ひとりがみんな元気であると感じます。有名な企業があるからとかではなくて、住んでいる人自身がまちに誇りをもっていることがポイントです。

そういう意味で言うと、北秋田市は例えば私が外からお客さんを連れてくるのですが、地域の人に「おいしいごはん屋さんがありますか」と聞いても、「そんなものはないよ」と言われます。そういうのがダメで、地域の人こそが「おいしいお店はここにあるから一緒に行こうよ」というぐらいのことを言えるところが元気のあるところになると思います。

そういった面ではまだまだ地元の元気が足りないと思います。もっと、自信を持って地域のことを進めていけるまちになれば良いと思います。秋田県人は自慢したいタイプではない、おしとやかな感じがしますが、せっかく外から来た人に「食べ物屋さんが無い」なんて言わないで欲しいと思います。地元を誇りを持って欲しいです。

聴衆 3

今のまちへの誇り、自信に関して感じていることを 3 人にもお聞きしたいです。

布田さん

いつも集まる若手のメンバーがいるのですが、そういう人たちに自分は誇りを持っています。そこからこのまちをどうしていこうかと考えるとすると、内輪を固めて内輪で笑って、その笑いが外に伝わっていけばいいなと考えています。

柳原さん

ネガティブなことをいう人が結構いる中で、外から来て一人でやっているとくじけそうになりますが、駅前に元気な人たちがやって来たのですごく心強くてそれが強いと思います。

武田さん

モノとか風景とかではなく人ということですね。

長谷川さん

「何も無い」という人が多いと思うのですが、逆に自分も含めて移住者が「すごく良いよ」と言ってくれるだけで、「あっ、そう」とコロッと考えを変えてくれる人も割と多いので、そういうことの積み重ねだし、繰り返していくしかないと思います。

多分 10 年 20 年も住んでいれば、人はどの場所でもその場所を分かった気持ちになって、会社も組織も一緒ですが、良さも分からなくなってしまうし、まちもそうだと思います。その分、外から来た人

の声をきちんと聴くとかそういう人たちが発信していくことによって、実はそうではないんだということに気づかされるので、そういう意味では外から来た人が発信していけば、人の認識も変わってくると思います。

もう一つは、実はおいしい場所を知っているのに言いたくなかったりするような、変に謙虚なところがある東北人の特質だと思います。自分ではおいしいと思っていっても、人に言うのは照れ臭いから言わないだけというのもあると思うので、中々変えられない部分があると思います。

聴衆 1

改めて柳原さんに質問ですが、自分も家を持ちたいと思っておりますが、自分の理想をかなえるとすれば、新築でゼロから作り上げたいと誰しもが思うと思いますが、一方で誰も住まなくなった中古住宅や売りに出されていない廃墟のようなところが身の回りで増えてきていて、うまく活用できないかなという気持ちも同時に持っています。

そういう状況の中で、我々が今後 50 年ぐらい生きるとして、理想の家というのはどのようなものでしょうか？北秋田市で生きていく上での理想的な家とはどのようなものなのでしょうか？

柳原さん

織山さんのところを手掛けた時は、もっと雪囲いのデザインをしたいというのがあってチャレンジした物件でした。北秋田市では、珪藻土やからめ石など、素材としては面白いものがあって、建築に使う材料を使っていけば北秋田オリジナルの家ができて面白いことが考えられそうだなと思っています。答えになっているかわかりませんが・・・。

聴衆 1

家の寿命を考えた時に、どれぐらいを考えて設計するものですか？

柳原さん

建てる人によります。短い期間を住めるように手をかけるのか、100 年もつように建てたいと思うのかは建て主さん次第だと思います。

武田さん

そろそろお時間となってまいりましたので、最後に市長から感想と締めのご挨拶をお願いします。

市長

どうもありがとうございました。

熱心に聞いていただき、また質問も出していただき、心から感謝申し上げます。

私は北秋田市に誇りを持っています。ただ私の周りを見ると、暮らしやすいことが当たり前となっていて、「不便だ、何もない」ということが常套句として使われることに、私は気持ちの上で癪に触っているところがあります。

普段皆さんが、家族やお客さんが来た時にはすごいおもてなしをしてくれます。その一つひとつが地元にしてみれば、見慣れているまたは食べ慣れているものでありますが、よそから来た人からすれば、ものすごいごちそうであり珍しいものであります。

地域の郷土食で秋田といえば、きりたんぼやしょつつる鍋と言われていますが、普段食べているガッコやみそ汁や様々なおかずにしてもそうですが、食べ物に誇りをもって良いのではないかと思います。

例えば、七日市の長岐邸のような古民家に観光客を連れてきて、毎日というのは難しいかもしれません

が、地元の料理・お膳を提供することができれば、ツアーとしてもできると思いますし、そういうのを積み重ねていくことで、地元の人たちが北秋田市に関心をもって、誇りをもっているのではないかと思います。

行政がやれる範囲は限られていますが、元気の良い民間の方がいますし、その方々の持っているネットワーク、何よりも人だという話もありましたので、そういうものを我々も活用させていただきながら、何度も言いますが、我々行政の仕事は未来につなげていかなければなりません、未来の北秋田市のために残していかなければなりませんので、皆様からのいろんな貴重なご意見を今後の参考にさせていただきながら、先ほども言いましたが、決して敷居を高くしているわけではありませんので、ぜひいろんな考え方を教えていただければと思います。今日は本当にありがとうございました。

武田さん

ありがとうございました。

本当に人の元気さがすごい大事だと思っています。我々も飲みながらまちのことを考えたりするので、そういった仲間がまちにはいろんな世代で沢山いると思うので、そこがもっとつながったりすると、新しい動きができて、行政とタッグを組んで「ゆる」ネットワークで攻めていく北秋田市が実現するのではないかと感じました。

お時間になりましたのでコーディネーターの任を終わらせていただきます。ありがとうございました。

司会

ありがとうございました。パネラーの皆さんコーディネーターの武田さん大変長時間にわたりありがとうございました。

会場の皆様から大きな拍手をお願いします。

これをもちまして、第2回目の「令和元年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を終了いたします。

お気をつけてお帰りください。

長時間のご清聴、まことにありがとうございました。



津谷 永光 市長



コーディネーター 武田 昌大 氏



布田 信哉 氏



柳原 まどか 氏



長谷川 拓郎 氏



